

2017年4月27日付 建設通信新聞 第12面(最終面)

施工経験記述は事前の準備が必須

前回に続き、1級施工管理技術検定・実地試験の施工経験記述について解説していく。

今回は経験記述の具体的な出題形式についてお伝えする。種目によって傾向は異なるが、概ね「施工計画」「工程管理」「品質管理」「安全管理」「合理化」「環境対策」といったテーマが与えられ、その項目に則した自身の経験を記述する形式が主である。

知識の有無にかかわらず、「今すぐに書け！」と言われてすぐ過去の経験を思い出し、一定水準を満たした内容を記述するのは難しいだろう。事前準備は必須であることを肝に銘じて学習してほしい。

■丸暗記ではだめ

施工経験記述の答案作成に当たり、例文を丸暗記しようとする受験生は少なくない。しかし、時間をかけて丸暗記しても、受験経験者の中には「例文をひたす

最大の結果を出す勉強法

施工管理技士 合格のポイント⑥



ら暗記し試験に臨んだが、ど忘れして書けなかった」「出題テーマが予想と異なり何も書けなかった」などの経験がある方も多い。

それならば、自分自身が作成した経験記述であれば、試験会場で、ど忘れして全く書けないこともなく、結果的に早く

覚えることができる。また、予想と異なるテーマが出題されても応用できる。

第一、例文などを転記した場合は、その時点で不合格である。思い当たる方は、講習会を通じて試験と向き合ってもらいたい。例えば、CICの講習会では専門講師が施工経験記述の添削指導も行っている。ここで、経験記述の不安を解消してほしい。

■柔軟な思考がカギ

経験記述が書けない受験生の傾向についても述べておきたい。受験生には、独自の工事を書こうとしても、特殊な工事経験がない、または思い出せないという方がいる。

確かに、オリジナルの記述である必要はあるが、他に前例がないような特殊な

工事を無理に書く必要はなく、日常的な対策を記述すればよい。

着工から完成まで完璧な工事ばかりではなく、大なり小なり問題が発生するたびに対策を行っているはずである。その対策を記述すればよいのだ。柔軟な思考で試験対策を行っていただきたい。

■時間を作るのも 対策

合格には受験テクニックも重要であるが、合格したいという強い思いとモチベーションの継続が大切である。最後に合格者の体験談をもとに、合格を果たすためのヒントをご紹介します。

① 毎日、短い時間でも学習時間を確

記述には第三者の添削が不可欠

保する—どんなに忙しく、疲れていても、とにかく毎日続けることが大切である。継続学習を習慣づけることが合格にいたる最大のポイントだ。

② ながら学習は受験生の最大の敵！テレビや携帯電話は見ない！—集中して静かな学習環境を自分で作るの、当たり前のこと。集中するためには、雑音

施工経験記述のポイント

記述文を自身の経験に基づいて作成	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れにくい ・後からの改善も容易 ・他のテーマへの応用がしやすい ・高得点が期待できる
参考書などの記述文を丸暗記	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れやすい ・誤った部分があっても気づくことができない ・応用がきかない ・不合格となる

はシャットアウト！メリハリをつけて学習を進めること。

本コラムは今回で最後となるが、科目によっては学科試験直前の追い込み時期であろう。皆さま方が実力を遺憾なく発揮され、合格の栄冠を勝ち取られることを心よりお祈り申し上げます。(おわり)
(日本建設情報センター)